

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

16日目【2000年4月29日午後】

全37日間

横たわった、巨大なお釈迦様〈張掖～酒泉〉前半

ここ張掖駅では、15分の停車時間があると時刻表に明記されていたので、余裕があると思っていた。軟座専用の車掌に話をすると、「直ぐに6号車に急げ」と言うので、重い荷物を持って走った。

行くと、その車掌は、「ここで待て」と云う。言ったきり、その車掌は居なくなった。出発時間は迫ってくる。不安でどうしようもなかった。どうすることも出来ない。このような状況になって初めて気付いたことがある。上手く説明できないが、一人での寂しさではなく、自分の置かれた立場に悲しさを覚えた。自分の無力さも感じた。一人では、何も出来ないことを覚った。

出発まで、あと数秒、出発ベルが鳴り響いているさなか、さっきの車掌が、「ここへ乗れ」と言ってくれた。



酒泉駅



酒泉のホテル



酒泉の街並み

安堵したのか、嬉しくて涙が溢れてきた。そんなこんなで、無事に16時過ぎ、酒泉駅に到着した。

けていられるでしょうか。
最近、お寺の存在意義について、いろいろ考えます。大変衰しい事ですが、お寺の衰退が止まらない昨今の現状があります。文化庁宗務課のデータによると、全国約七万七千の寺院のうち、約二万カ寺が住職のいない「無住寺院」で、宗教活動を停止した「不活動寺院」は二万カ寺以上と推計されるところ。
人生を歩んでいく、その道において、お寺が必要であると思つて貰いたい。そんな寺院運営をしていけるよう、勤めて参ります。



初日の出（令和8年元旦）



葬除夜の鐘撞き（石原総代）

れ続ける、このことは当然で、疑いようのない事実であつたと思われまふ。
しかし、これだけ、世の中が変化し価値観も変わっていく現代、果たして、今後も、法要行事が

毎年、同じことを繰り返して、法要を勤めてきたのでしょうか。
今までは、これまでで行ってきたことが、今後も、あたり前に行われ続ける、このことは当然で、疑いようのない事実であつたと思われまふ。
報恩講も、そうでしょうが、寺が開基され、約五百年超、毎年、時から元旦会法要を勤めました。
除夜会法要を終えたのが、午前一時過ぎ。直ぐに就寝し、午前七時から元旦会法要を勤めました。

住職レター

昨年の大晦日、無事に除夜の鐘を撞き、本堂内で除夜会法要を勤め終えました。煩惱を滅するため、除夜の鐘を撞くのだと、一般的に言われています。滅するどころか、煩惱だらけの自分自身に気付く、心を整えようとしても、とらわれの心が邪魔をして、心乱れる毎日であるなと、思い至ります。

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

16日目【2000年4月29日午後】

全37日間

横たわった、巨大なお釈迦様〈張掖～酒泉〉後半

酒泉も河西回廊の中心に位置したオアシス都市である。周囲2キロほどの城壁に囲まれた街を出ると、そこは石ころを含んだ黄色の大地が広がっている。昨日、行った祁連山脈の雪解け水が、降雨量の少ないこの河西回廊を潤しているとのこと。

街の雰囲気も、何となくオアシス都市らしい感じがしている。漢民族の中に交じって、西域のウイグル族の顔立ちをした方が多くなったような気がする。

夜は屋台街でシシカバブーをはじめ、ウイグル料理を色々食べた。香辛料が強めで辛く感じたが、街の雰囲気に飲まれているのか、美味しく食べることが出来た。

ここ数日、食に関しても、かなり慣れてきた気がする。食べないと、明日に進めない、その気持ちが、食欲増進させるのか。しかし、朝食の中華バイキングだけは、未だに嫌になる。

明日は万里の長城の、西の終点を目指す。



香辛料強めの料理



ウイグル料理



酒泉の屋台

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)

二月 十六日 (月曜日)

午後一時半

* 毎月十六日に本堂において勤めております。

「仏教婦人会報恩講」 (善教寺本堂)

三月 十三日 (金曜日)

午後一時半 追悼法要

午後二時 昼席

十四日 (土曜日)

午前十時 朝席

午後一時半 総会

午後二時 昼席

講師 広幡康祐師 (呉市安浦町 信楽寺)

* 仏教婦人会主催法要

* 仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催

「柏原春季彼岸会」 (柏原説教堂)

三月 十九日 (木曜日)

昼席・夕席

講師 柳父一道師 (広島市安芸区 品秀寺)



ご 縁 に 感 謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp